

平成25年1月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859）

青梅市内にある遺跡の現状 その8

文化財ニュース第293号では、霞川本流の上流から吹上小学校の所までをご紹介いたしました。今回はその北側、塩船観音寺西方から流出する支流にそって東へご紹介いたします。

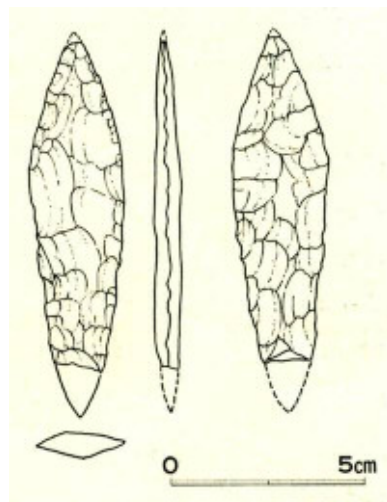
①K-14 は塩船観音の普門閣裏側に位置しています。現在はつつじ園として整備され地形も変わりましたが、整備される前の地形では奥に湧水があり、中央にはテラス状の平地がありました。その場所が遺跡となっており、縄文時代前期後半の土器片（諸磯式）が採集されています。また、その周辺や尾根でも同時期の土器が採集されています。

②K-15 はいわゆる谷地と呼ばれる地形となっています。ここから縄文時代中期後半の土器や弥生時代後期の壺形土器口縁部、古墳時代後期の土師器甕、甑などが発見され、塩船観音本堂の中に保管されています。現在この遺跡には客土が持ち込まれ、住宅地となっており遺跡の面影はありません。

この谷地の東側台地上は打越遺跡（③K-16）と呼ばれている遺跡です。ここで発見された土器片には粘土の中に植物等の繊維を含ませて焼いたものがあり、縄文時代前期前半の土器と思われます。また、器面に竹管文や縄文を付けた縄文時代前期後半の土器、中期前半、同後半に属する土器片も採集されています。他にも奈良時代や平安時代に使われた土師器のかけらも見つかっています。現在はその地にベンチなどを設け、公園として利用しています。

打越遺跡から南東へ下った平地の一角にも、竹管文を施した縄文時代前期後半の土器が見つかり、遺跡の存在を示しています（④K-17）。

塩船寺裏山は墓地となっており、その南向きの台地が遺跡です（⑤K-18）。この遺跡では、塚を発掘した際に発見されたという、市内でも数少ない石の槍（第1図）が重要な物となっています。頁岩という石を薄く割り、両面を剥離しながら細長く形を整え、両先端をとがらせたものです。発掘時は既に両端の先端は折れており、復原した場合13cmほどのものであったと推定されます。先土器時代の遺物と考えられ、他に出土した縄文時代前期前半の土器などから、市内でも貴重



第1図 K-18 遺跡出土
石の槍

な遺跡となっています。

⑥K-19 は下前遺跡と呼ばれ、宅地造成に伴う第一次発掘調査が平成 13 年 4 月に、第二次調査が平成 22 年 3 月に行われました。その結果、縄文時代後期の堀之内式土器が多数出土したほか、19 か所におよぶ土壌^{どこう}（墓のあと）や礫群 2 か所、ピット 8 本などが確認されました。また、石製品では、石鑿^{せきぞく}や打製石斧^{すりいし}、磨石、石棒、石皿などが出土し、他に石でできた重り 11 点、チャートという石でできた穴を空けるためのキリ、そして先土器時代に属するナイフ形石器が出土し、せまい発掘範囲の割にはたいへん貴重な遺物が出土しました。

⑦は真浄寺参道の東側にある遺跡で、真浄寺東遺跡と呼ばれています。ここは平成 4 年、11 年、13 年と三回にわたり発掘調査が行われ、平安時代の住居跡や柱の穴などが確認されました。遺物では土師器や須恵器などのかけらのほか、中国製青磁鉢片も出土しました。この発掘調査は遺構確認という目的から、トレンチ（試掘溝^{しくつこう}）での範囲に限られ、遺跡全体を把握することは出来ませんでした。現在は宅地や駐車場となっています。

⑧K-20 はバス通りのすぐ横にあり、三角形に道で囲まれた遺跡です。現在は空地となっていますが、ここからは縄文時代前期前半の土器が採集されています。

⑨K-21 は吹上中学校のある尾根が東へ延び、その先端に位置する台地にある遺跡です。ここからは縄文時代中期前半と後半の土器が採集され、平安時代の土師器や須恵器なども採集されています。

この台地から南へ 50m ほど下ったゆるやかな斜面が遺跡です（⑩K-22）。ここからは、平安時代に使われていた、敲き目のある須恵器の壺片や土師器片が採集されています。

< 続く >

（文責 鈴木 晴也）



第 2 図 K14～22 遺跡と真浄寺東遺跡の位置